

第2章 郡山市の概況

1 概況

- (1) 位置・面積・地勢
- (2) 気候・気象
- (3) 人口・世帯数
- (4) 産業構造
- (5) 土地利用
- (6) 交通の状況
- (7) 本市の自然環境の概況

2 市民意向

- (1) 調査の概要
- (2) 調査結果（抜粋）

第2章 郡山市の概況

1 概況

(1) 位置・面積・地勢

本市は、福島県の中央部に位置し、海拔 245m 前後の安積平野と呼ばれる平坦地を中心に市街地が広がり、市の中心部を南から北へ阿武隈川が流れています。

本市の面積は、757.20 km²で、福島県で4番目の面積を有しており、周辺は、西に猪苗代湖、東に阿武隈山地、北は安達太良山に接しています。

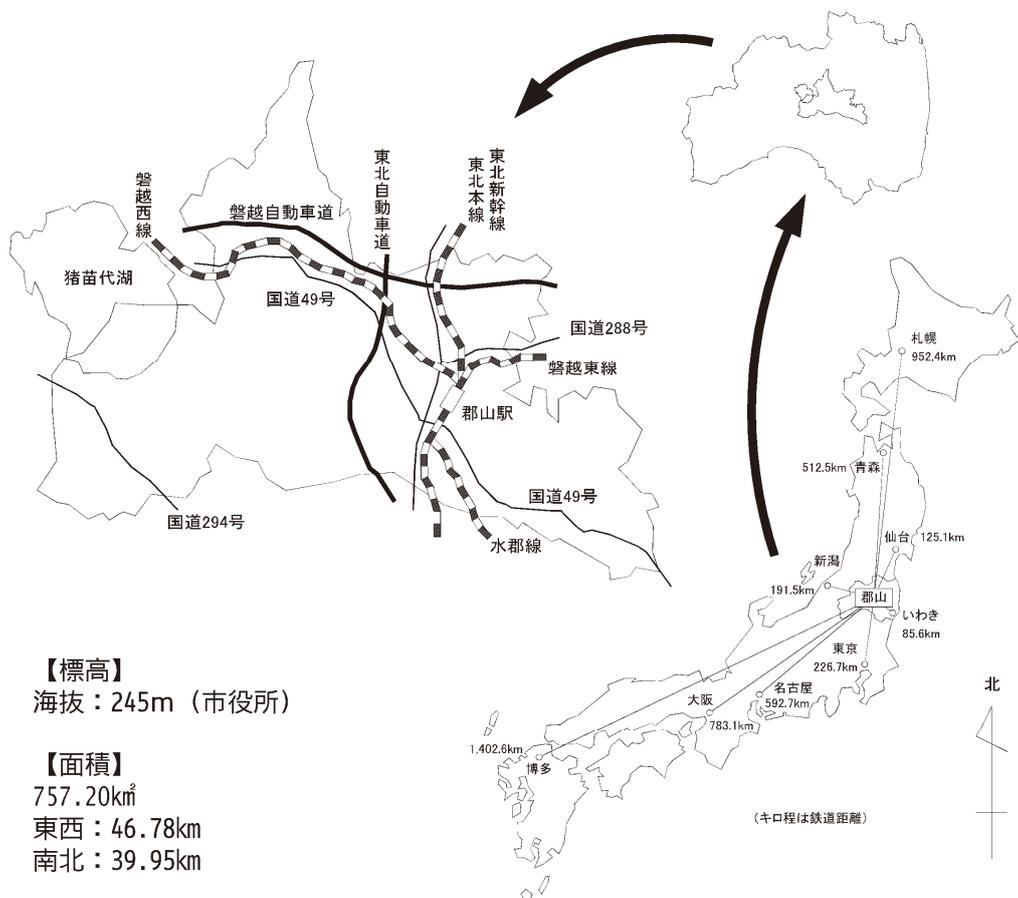


図2-1 郡山市の位置図

表2-1 郡山市の位置・面積

地域	東経	140°02'10" ~ 140°33'52"
	北緯	37°15'58" ~ 37°37'34"
	東西	46.78 km
	南北	39.95 km
面積	757.20 km ²	
標高	海拔 245m（市役所）	

(2) 気候・気象

本市は、東に阿武隈山地、西に奥羽山脈があり、それらに囲まれた内陸の平野部に市街地を形成しています。太平洋からは約95km、日本海から約200kmの距離があります。

東北地方の中では比較的温暖な地域であり、2011（平成23）年から2020（令和2）年の最近10年間の平均気温はおよそ12～13℃で推移していますが、前半5年間の平均12.1℃に対し後半5年間の平均は12.7℃となっているなど、近年やや高くなっている傾向が見られます。年間降水量はおよそ900mm～1,300mmと全国平均より少なくなっています。

表2-2 本市の気象概況

	気温（℃）			平均風速 （m/s）	年間日照時間 （hr）	年間降水量 （mm）
	平均	最高	最低			
2011年	12.0	35.5	-7.5	3.2	1,824.3	1,033.0
2012年	11.8	34.7	-12.5	3.2	1,837.9	1,078.0
2013年	12.1	34.4	-10.9	3.3	1,890.8	1,231.5
2014年	11.9	35.3	-8.5	3.2	1,912.5	1,190.5
2015年	12.8	35.1	-6.0	3.2	1,689.9	1,018.5
2016年	12.9	33.7	-6.6	3.1	1,814.4	1,055.5
2017年	12.0	34.8	-7.7	3.1	1,825.9	1,056.0
2018年	13.0	36.0	-8.7	3.0	2,058.9	836.5
2019年	12.8	36.2	-7.0	3.0	1,876.9	1,321.0
2020年	13.0	36.2	-6.3	2.9	1,740.0	1,043.0

資料：気象庁

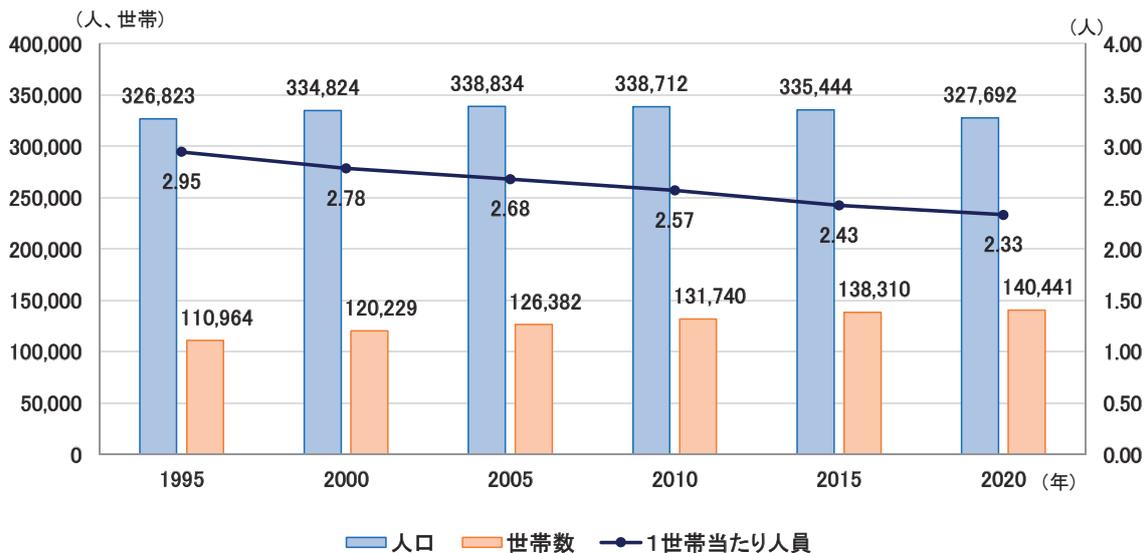


郡山市の花 ハナカツミ

(3) 人口・世帯数

本市は東北地方で、仙台市、いわき市に次いで、3番目に人口が多い市となっています。市内の人口は2005（平成17）年をピークに、近年、減少傾向にあります。

一方で世帯数については増加傾向となっており、結果1世帯当たり人員は減少しています。



資料：国勢調査

図2-2 本市の人口と世帯数の推移



郡山市の木 ヤマザクラ

(4) 産業構造

市内の就業人口全体をみると、2000（平成12）年の165,517人をピークに減少傾向にありましたが、2015（平成27）年の国勢調査では増加に転じています。これは震災後の復興関連による、労働力需要の拡大も一因であるとみられます。

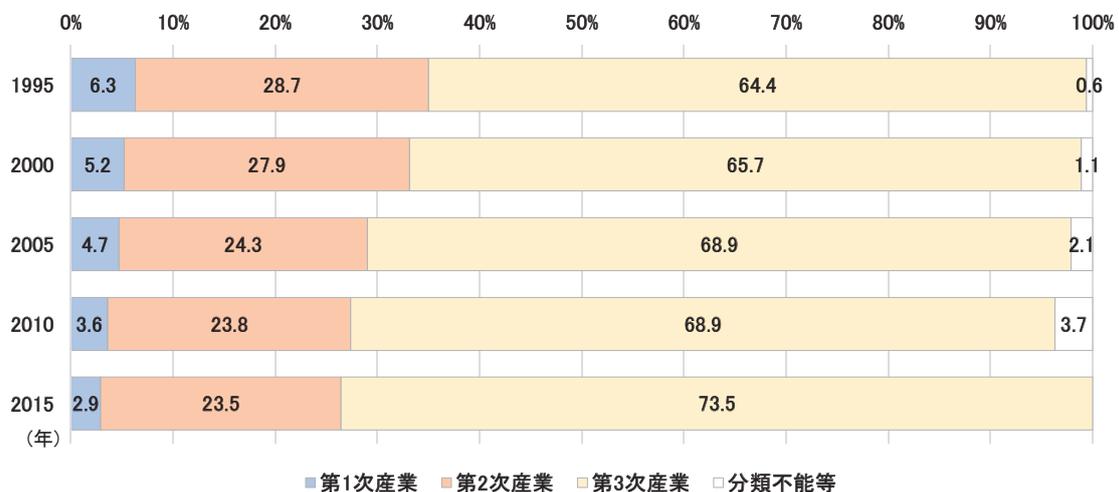
表2-3 市内の就業人口

	第1次産業	第2次産業	第3次産業	合計
1995年	10,396人(6.3%)	47,152人(28.7%)	105,548人(64.4%)	164,019人
2000年	8,639人(5.2%)	46,175人(27.9%)	108,814人(65.7%)	165,517人
2005年	7,505人(4.7%)	38,793人(24.3%)	109,942人(68.9%)	159,643人
2010年	5,199人(3.6%)	34,375人(23.8%)	99,647人(68.9%)	144,621人
2015年	4,550人(2.9%)	36,734人(23.5%)	114,772人(73.5%)	156,056人

資料：国勢調査（合計には「分類不能の産業」を含む）

注1：カッコ内の各産業に「分類不能の産業」は含まないため、構成割合の合計が100%にならない場合がある。

また、産業別の就業人口をみると、第3次産業は年々増加傾向にあり、2015（平成27）年では、2010（平成22）年比で115%と大きく増加する結果となりました。



資料：国勢調査（合計には「分類不能の産業」を含む）

注1：各産業に「分類不能の産業」は含まないため、構成割合の合計が100%にならない場合がある。

図2-3 本市の産業別就業人口

(5) 土地利用

市内の土地利用の状況は、山林・原野等が面積の約5割を占めていますが、都市化の進捗とともに年々減少傾向にあり、逆に宅地が増加しています。

表2-4 本市の土地利用状況

各年1月1日現在

	総面積 (単位: km ²)	地目別土地面積 (単位: km ²)						
		宅地	田	畑	山林	原野	雑種地	その他
2016年	757.20	58.33	105.72	52.49	316.34	47.31	14.15	162.86
2017年	757.20	58.68	105.50	52.10	316.23	47.16	14.50	163.03
2018年	757.20	59.10	105.37	51.72	316.74	46.73	14.84	162.70
2019年	757.20	59.56	105.14	51.51	316.37	46.69	15.28	162.65
2020年	757.20	59.70	105.11	51.23	316.29	46.68	15.46	162.73
構成比	100%	8%	14%	7%	42%	6%	2%	21%

資料：郡山市統計調査

(6) 交通の状況

本市は、東北自動車道をはじめ、東北新幹線、磐越自動車道の開通や福島空港の開港により、道路、鉄道、空港が結節する「陸の港」としての交通の要衝の地位を確立してきました。

道路整備においては、高速交通体系への対応、鉄道や河川横断部の混雑解消、生活環境向上を図るため、都市計画道路などの幹線道路や生活道路の整備を進めてきました。

表2-5 都市計画道路の整備

2021(令和3)年3月末日現在

	延長	割合
計画延長	204.08 km	
整備済延長	146.26 km	71.7%
概成済延長	33.18 km	—
整備・概成合計	179.44 km	87.9%

注1：概成済とは、概ね計画幅員の3分の2以上の道路、または4車線以上の道路を指す。



2021（令和3）年9月現在

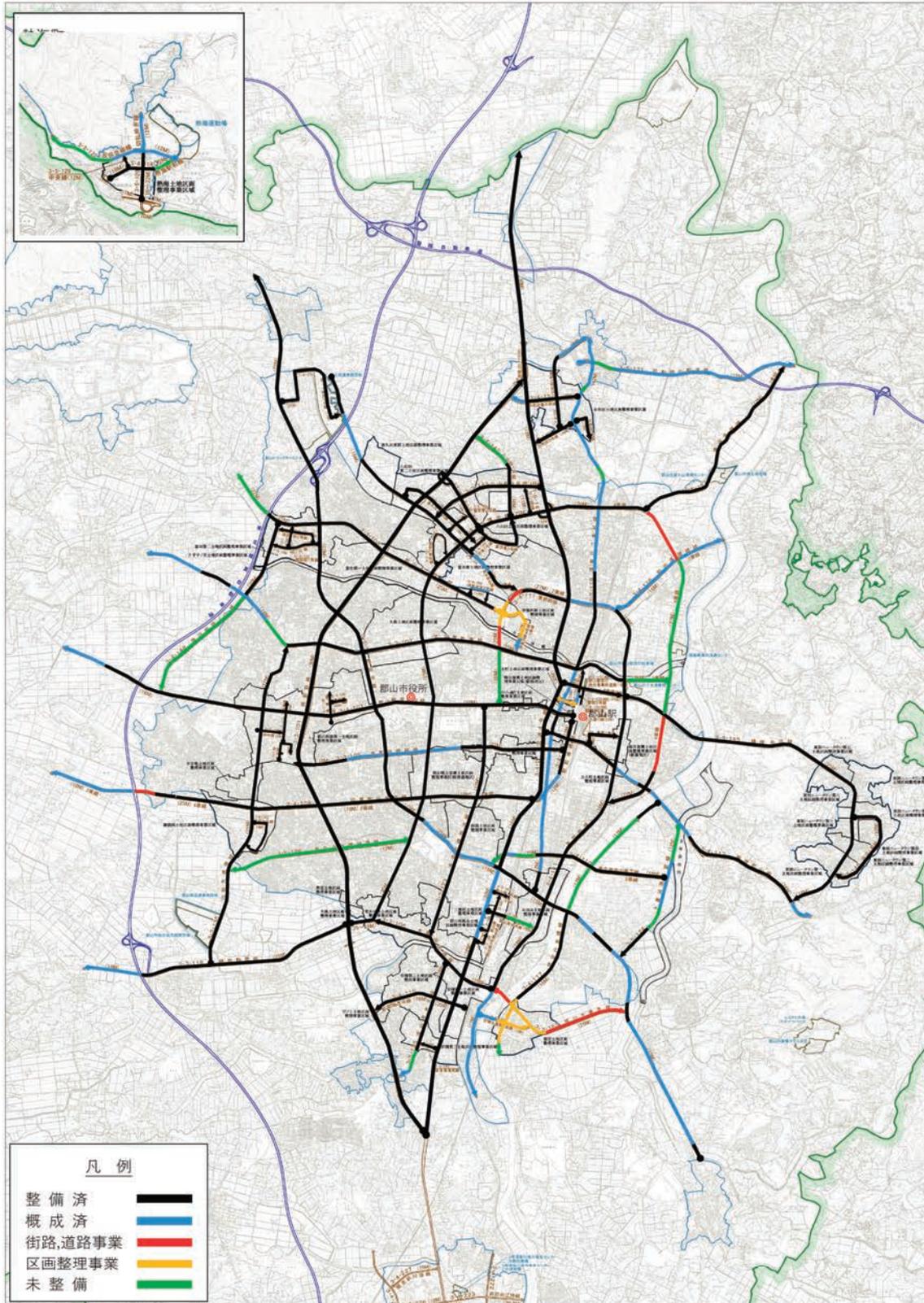


図2-4 都市計画道路の整備状況

(7) 本市の自然環境の概況

①自然とみどり

本市の森林面積は、39,947ha（福島県統計年鑑 2020）であり、市の総面積の約5割を占め、緑が豊かな環境となっています。

また、貴重な自然として、本市には「福島県自然環境保全条例」に基づき自然環境保全地域に指定されている地区が5箇所あります。自然環境保全地域とは、自然性が高く稀少性に富み、学術的価値の高い地域について恒久的に保存することを目的として、知事が指定した地域です。

また、同条例に基づき、快適な生活環境を維持するために、私たちの身近にある森や防風林等を保全すべきとして指定された緑地環境保全地域が、市内に2箇所あります。



図2-5 市内の自然環境保全地域、緑地環境保全地域の位置

表2-6 市内の自然環境保全地域

地域名	所在地	面積(ha) (特別地区面積)	保全対象
① 石筵	熱海町割石地内	51.90	シダレグリの自生地
② 浄土松	逢瀬町多田野地内	35.00 (11.30)	アカマツ天然林、巨大な奇岩群
③ 奥州街道松並木	日和田町横森～ 庚申向地内	1.70	アカマツの並木
④ 宇津峯山	田村町地内	174.81	変成岩類の盆地上構造ほか
⑤ 深沢	熱海町石筵地内	43.81 (43.81)	ヒノキアスナロの天然林

注1：特別地区とは、自然環境を保全することが特に必要な地区のことで、自然環境保全法により建築物の新増築や宅地の造成等には、許可が必要となる。

表2-7 市内の緑地環境保全地域

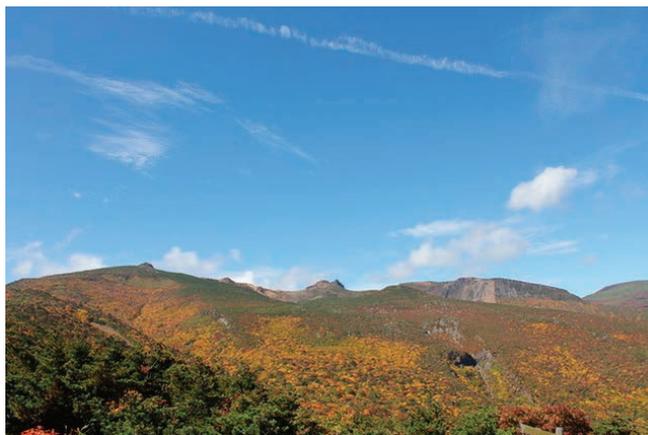
地域名	所在地	面積(ha)	保全対象
⑥ 隠津島神社 	湖南町 福良地内	12.50	隠津島神社と一体になった自然環境
⑦ 妙見山 	三穂田町 飯森山地内	5.50	飯豊和気神社と一体になった自然環境

景観の保全という観点では、風致地区^{※6}が市内で4地区、合計101.5ヘクタール指定されています。風致地区内における建築や宅地の造成、木竹の伐採等を行う場合は、本市の条例に基づき、あらかじめ市長の許可を受ける必要があります。また、同じ地区内でも第1種から第3種までの種別に応じて、異なる建築物の建築等の許可基準が適用されています。

表2-8 市内の風致地区（単位：ha）

地区名	第1種	第2種	第3種	計
五百淵風致地区	15.5	-	11.5	27.0
開成山風致地区	-	35.0	-	35.0
荒池酒蓋風致地区	-	-	16.0	16.0
善宝池風致地区	11.0	9.2	3.3	23.5
計	26.5	44.2	30.8	101.5

また、国立公園として、陸域では我が国で2番目に大きな磐梯朝日国立公園の一部が本市に含まれています。磐梯朝日国立公園は、出羽三山から、朝日連峰、飯豊連峰、吾妻連峰、磐梯山、猪苗代湖までの広大な範囲に及んでいます。安達太良山には、国の天然記念物に指定されている貴重な植物であるハクサンシャクナゲの変種であるネモトシャクナゲが生育しています。



出典：環境省

安達太良山

^{※6} 風致地区：都市計画区域における植林地や水辺などの自然的景観を維持し、人と自然との調和のとれた環境をつくるために都市計画法で定められた地区のこと。

②河川や湖

本市は、猪苗代湖に接しており、安積疏水による開拓事業を通じた猪苗代湖の水資源が本市の発展に大きく寄与しています。こうした背景からも、本市では県や周辺自治体と連携して猪苗代湖の保全に努めてきましたが、近年猪苗代湖の水質悪化が顕在化してきています。

また、市内には南北に大きく流れる阿武隈川があり、この阿武隈川には、西側の奥羽山脈と東の阿武隈山地を源流とする多くの河川より、水が注ぎ込んでいます。河川敷においては、「日出山水辺の小楽校」やサイクリングロードなどの施設が整備され、市民の憩いの場となっています。他にも、中心部に残された水と緑の豊かな空間を活かした「南川渓谷」、自然豊かな水辺空間を利用した「逢瀬川親水広場」など水環境を活かしたまちづくりがなされています。また、「市民が選ぶ水とふれあう名所10選」の選定や、市民の自主的な活動として河川愛護団体による定期的な河川美化運動など、市民・事業者と行政が一体となり水・緑に関連する施策・事業を推進しています。

こうした取り組みに対して、地域固有の水をめぐる歴史文化や優れた水環境の保全に努め、水を活かしたまちづくりに優れた成果をあげている地域として、1996（平成8）年に本市は国土交通省より、水の郷百選に選定されています。



藤田川と桜並木

③動植物

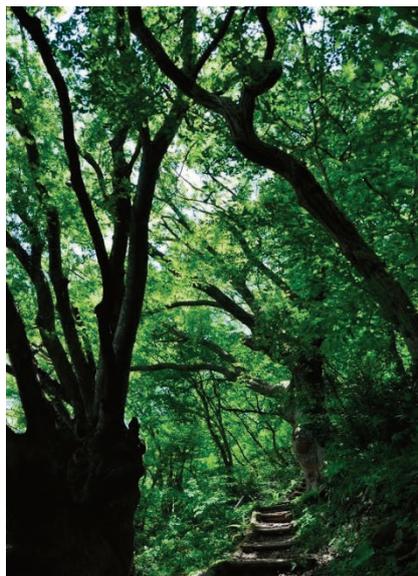
市内にはアカマツやブナの林が多く生息しています。アカマツ林は、自然環境保全地域に指定されている浄土松や奥州街道松並木などが植生地として挙げられます。

ブナ林については、湖南町の中ノ入地区には自然のブナ林があり、地域の方々により守り育てる活動が実施されています。また、緑地環境保全地域に指定されている隠津島神社周辺には、ヒメアオキやハイイヌガヤなどのブナ林を含む原生林があります。



隠津島神社の自然林

さらに、五百川に沿った蓬山遊歩道には、樹齢 300 年の直径 2 メートルを超えるケヤキの群生地があります。



ケヤキの森

また、山林や原野が広がり自然豊かな本市では、東部森林公園や高篠山森林公園などで、カモシカやリス、ノウサギなどの野生の動物がみられます。

哺乳類に関しては、特に東西の阿武隈山地や奥羽山脈には、ニホンザル、イノシシ、アナグマ、タヌキ等が生息しています。

鳥類に関しては、市内の豊富な水辺にゴイサギ、カワウ、マガモなどの水鳥がみられます。その他、オオハクチョウ、シギ、チドリが中継地などとして飛来しています。平地から山地にかけては、オオタカなどの大型の鳥に加えて、キジやヤマドリもみられます。またウグイスやホトトギス、さらには郡山市の鳥に指定されているカッコウなどがみられます。

魚類に関しては、阿武隈川の緩やかな流れの水域を中心にギンブナ、ニゴイやメダカなどがみられます。上流等流れが速い地点においては、アユやヤマメ等が生息しています。

なお、絶滅危惧種として指定は受けていませんが、天然記念物に指定されているヤマネ等の動物も市内に生息しているとみられます。



郡山市の鳥 カッコウ

2 市民意向

本計画の策定にあたり、まちづくりネットモニターを活用し「郡山市の環境について」をテーマにアンケート調査を実施しました。

(1) 調査の概要

調査期間	2021（令和3）年7月14日（水）～7月23日（金）10日間
回答方法	専用ウェブサイトから回答を返信
モニター数	360名（男性164名、女性196名）
回答者数	331名（男性153名、女性178名）
回答率	91.9%

《回答者内訳》

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	総数
男性	3人	5人	14人	29人	36人	12人	43人	11人	153人
女性	4人	12人	32人	63人	44人	19人	3人	1人	178人
総数	7人	17人	46人	92人	80人	31人	46人	12人	331人

※構成比は、端数を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

※過去の調査結果との比較を示すグラフでは、今回の結果を「今回(R3)」、平成28年度まちづくりネットモニター第12回調査の結果を「前回(H28)」と示しています。

※詳細は、別途『2021年度まちづくりネットモニター第5回調査「郡山市の環境について」』にて整理し、市ウェブサイト公表しています。

(2) 調査結果（抜粋）

① 関心のある環境に関するテーマ（1つ選択）

「大いに関心がある」と「関心がある」を合わせた割合は、「自然災害の防止について」（97.0%）、次いで「ごみの減量やリサイクルについて」（93.6%）、「気候変動（地球温暖化）について」（92.7%）の順に高くなっています。

「関心はない」の割合が8.8%でもっとも高い「環境教育・環境学習について」も含めて、全ての項目で、「大いに関心がある」と「関心がある」を合わせた割合は80%を超えています。

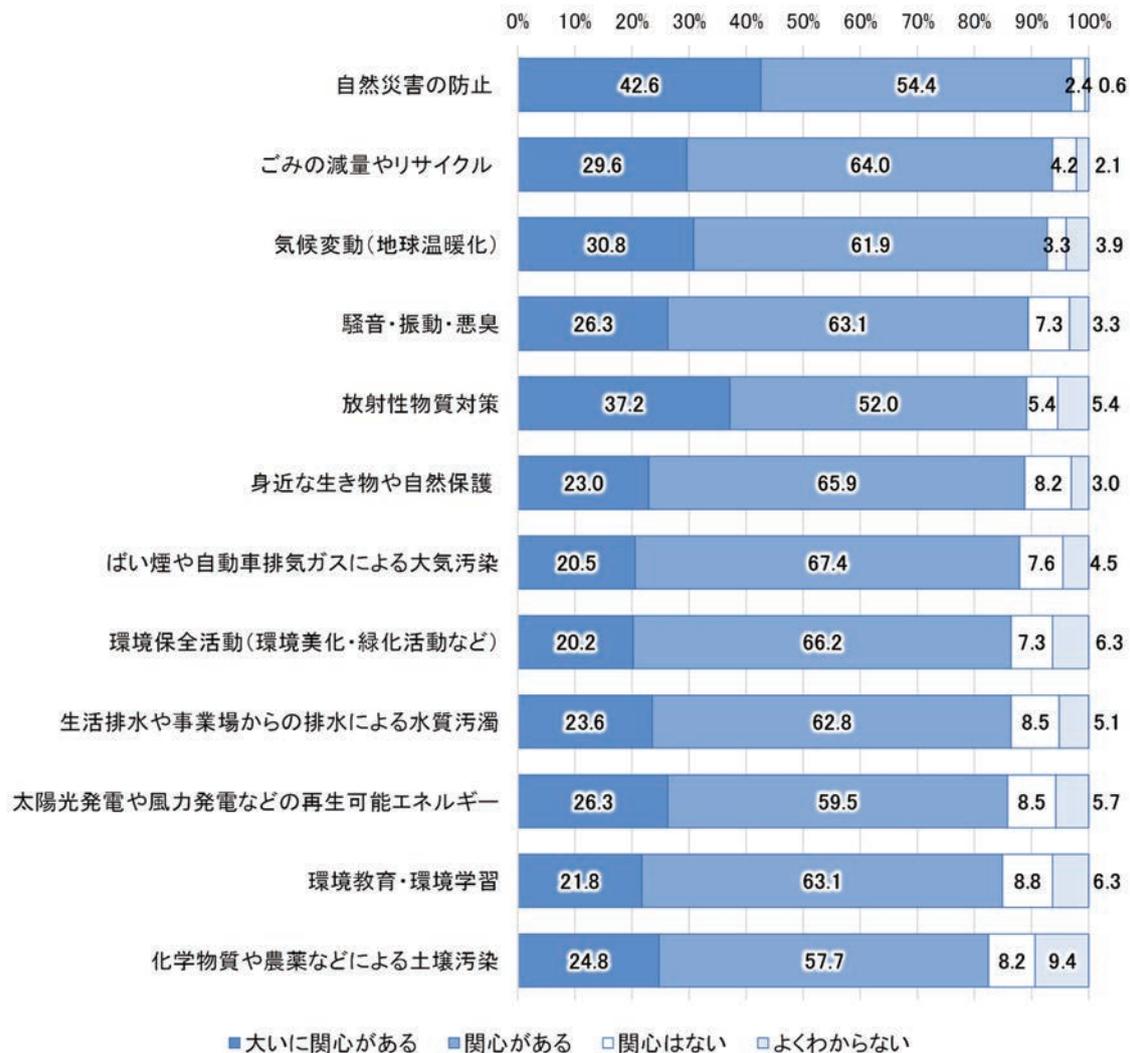


図2-6 関心のある環境に関するテーマ

②お住まいの地域を中心としたここ4～5年の生活環境の変化（1つ選択）

「良くなっている」と「どちらかというと言くなっている」を合わせた割合は、「太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーの普及状況について」（47.7%）、次いで「ごみの分別やリサイクルの実施状況について」（43.5%）、「歩道や自転車専用道路の整備状況について」（39.5%）の順で高くなっています。

「どちらかというと言くなっている」と「悪くなっている」を合わせた割合は、「気候変動（地球温暖化）の現状について」（74.3%）、「鳥などの動物、虫や魚などの身近な生き物の生息状況について」（51.0%）、「森林や田畑などの自然環境について」（48.0%）の順で高くなっています。

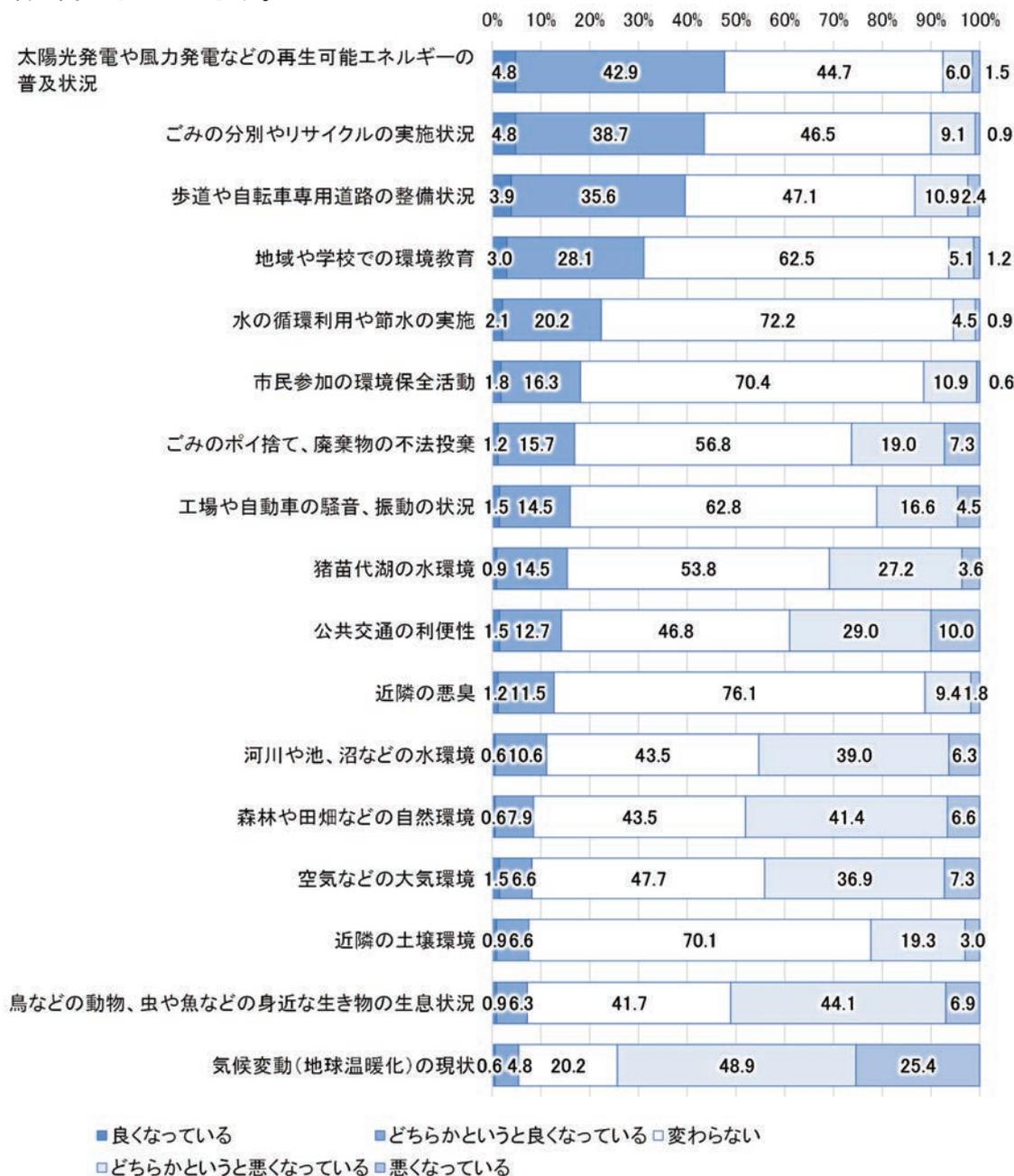
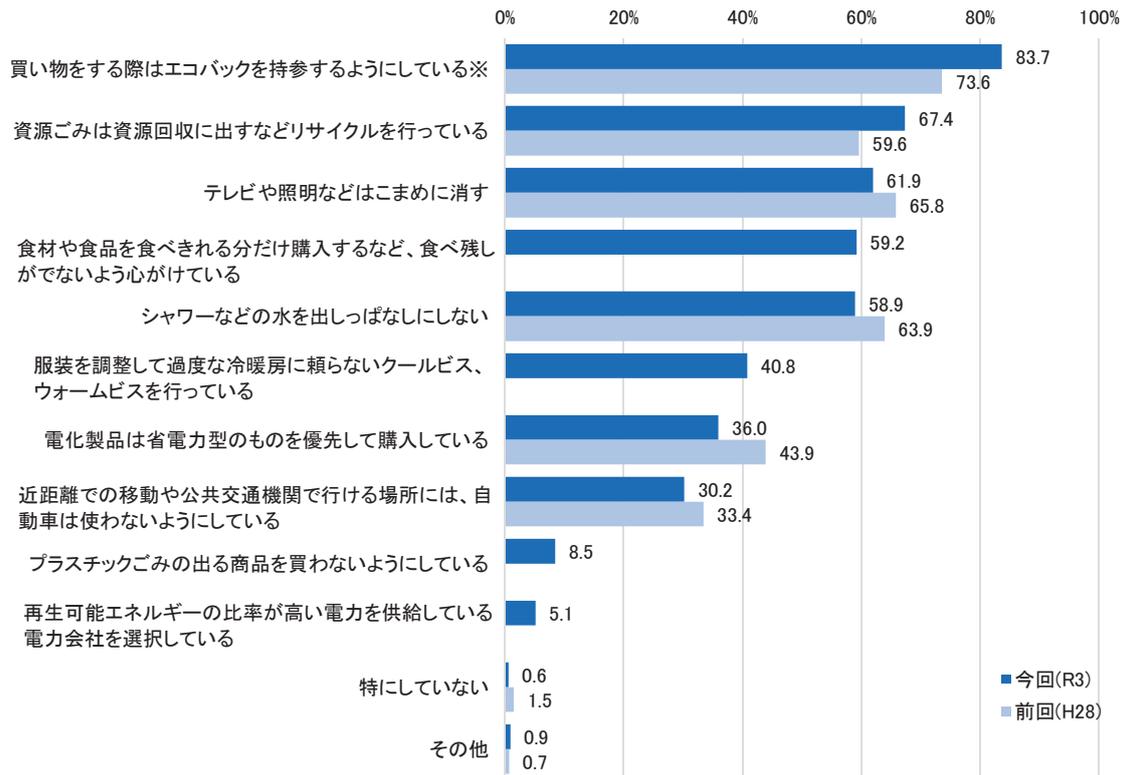


図2-7 お住まいの地域を中心としたここ4～5年の生活環境の変化

③日常生活の中で環境に配慮している取り組み（複数回答可）

「買い物をする際はエコバックを持参するようにしている」（83.7%）、「資源ごみは資源回収に出すなどリサイクルを行っている」（67.4%）、「テレビや照明などはこまめに消す」（61.9%）の順に割合が高くなっています。

エコバッグ持参増加はレジ袋有料化、リサイクルの増加は民間事業者（小売店等）でのポイントが付与されるリサイクル設備の設置等が原因と考えられます。



※前回(H28)では、「過剰な包装は断ったり、買い物袋を持参するようにしている」

図2-8 日常生活の中で環境に配慮している取り組み

④環境保全活動への参加意向（1つ選択）

「積極的に参加したい」と「都合のつく範囲で参加したい」を合わせた割合は 78.3% となっています。前回調査と比べると 3.1 ポイント低くなっていますが、「積極的に参加したい」の割合は 5.2 ポイント高くなっています。

「参加したいとは思わない」（21.8%）は、前回調査と比べると 3.2 ポイント高くなっています。

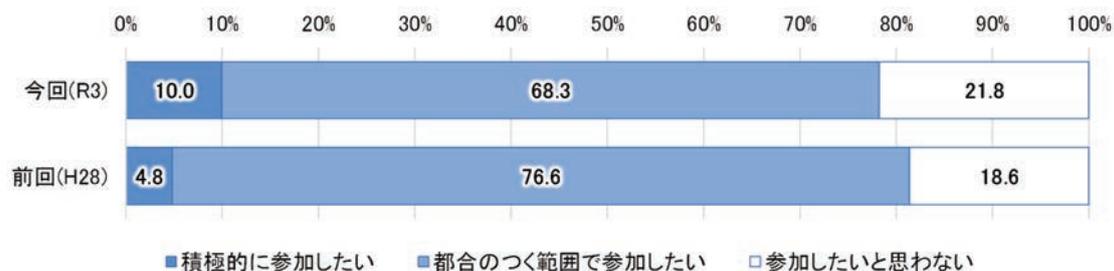


図2-9 環境保全活動への参加意向

「積極的に参加したい」及び「都合のつく範囲で参加したい」を選択した方が参加したい環境保全活動としては、「公園、道路などの清掃活動や緑化活動」（55.2%）が最も高くなっています。前回調査では上位3項目にも入っておらず、34.7 ポイントの大幅な増加になっています。

次いで前回調査でも上位3項目にあげられていた「自然観察会や自然環境保全に関する活動」（37.5%）、「農業体験」（33.2%）の順に高くなっています。

前回調査で3番目に割合が高かった「学校教育や地域での環境学習、環境保全活動の運営ボランティア」（26.3%）は、1.6 ポイントのマイナスとなっています。

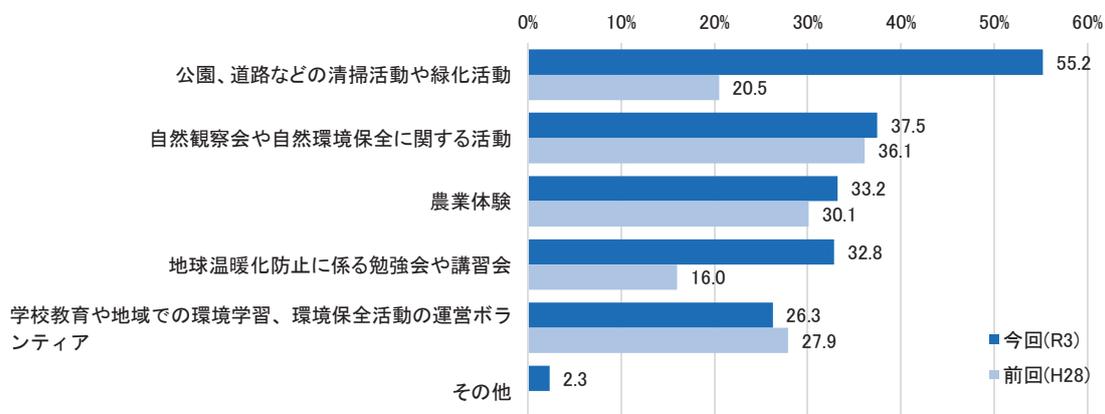
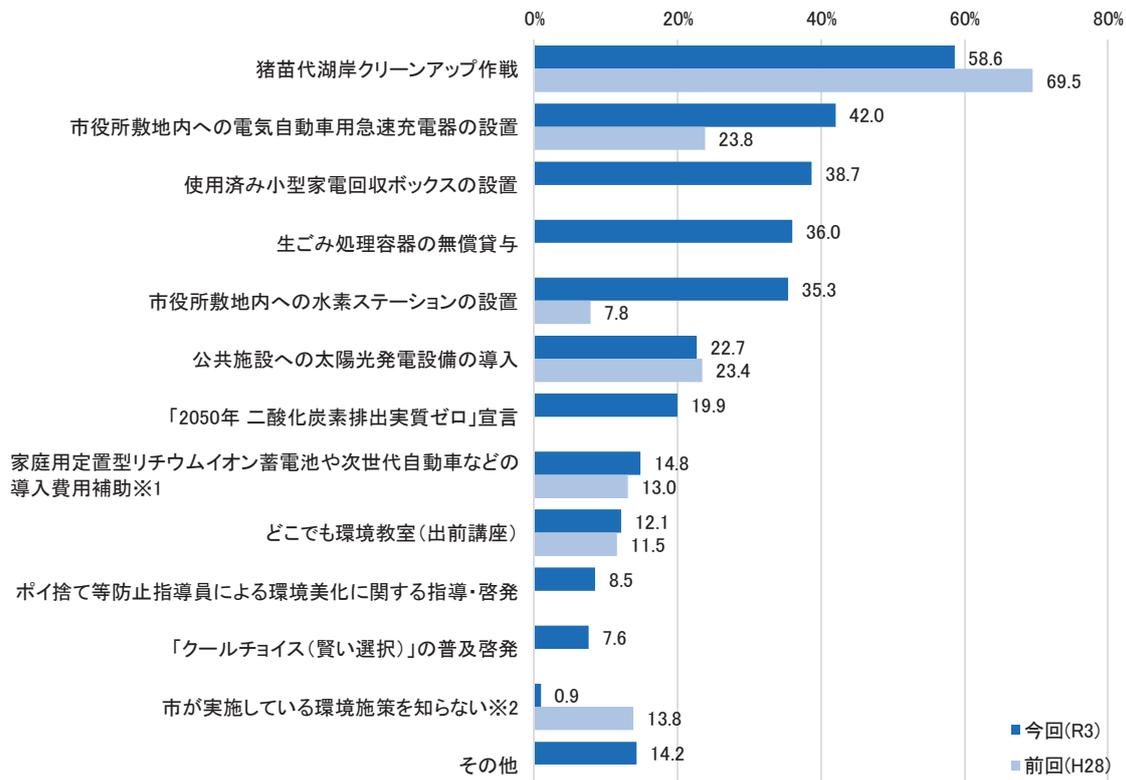


図2-10 参加したい環境保全活動

⑤郡山市の環境施策の中で知っている取り組み（複数回答可）

「猪苗代湖岸クリーンアップ作戦」（58.6%）が最も高くなっていますが、前回調査に比べると10.9ポイント低くなっています。次いで「市役所敷地内への電気自動車用急速充電器の設置」（42.0%）、「使用済み小型家電回収ボックスの設置」（38.7%）の順に高くなっています。



※1前回(H28)では、「家庭用定置型リチウムイオン蓄電池や地中熱利用ヒートポンプシステムなどの設置費用補助」

※2前回(H28)では、「特になし」

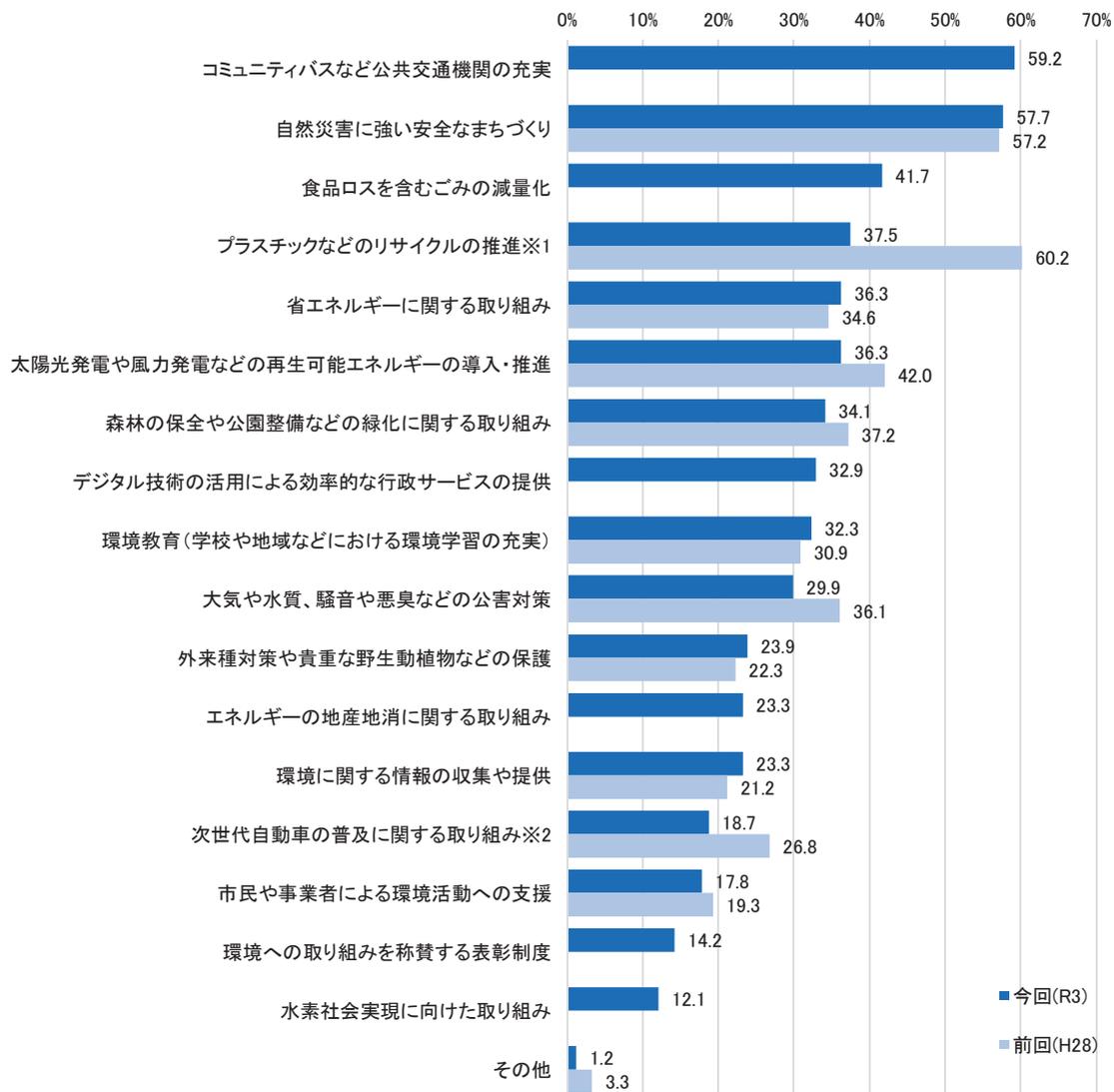
図2-11 郡山市の環境施策の中で知っている取り組み

⑥より良い環境づくりを進めるために、郡山市が今後力を入れて取り組むべきこと（複数回答可）

「コミュニティバスなど公共交通機関の充実」（59.2%）、「自然災害に強い安全なまちづくり」（57.7%）、「食品ロスを含むごみの減量化」（41.7%）が上位3項目となっています。このうち前回調査にもあった「自然災害に強い安全なまちづくり」は0.5ポイント高くなっています。

また、前回調査では「ごみの減量やリサイクルの推進」（60.2%）が最も高かったですが、今回調査で類似する「プラスチックなどのリサイクルの推進※1」（37.5%）は、22.7ポイント低くなっています。

コミュニティバスの導入は、環境負荷を低減させるばかりではなく、高齢化が進む中で自身で運転しない市民が増加することが推測され、交通部局と連携した取り組みが必要となっています。また、近年は数年に一度の割合で豪雨による災害が発生しており、自然災害に強い安全なまちづくりが求められていると考えられます。



※1前回(H28)では、「ごみの減量やリサイクルの推進」

※2前回(H28)では、「低公害車の普及に関する取り組み」

図2-12 より良い環境づくりを進めるために、郡山市が今後力を入れて取り組むべきこと